

果樹害虫にシャープな効果

# アークリン<sup>®</sup>水和剤

効果



安全性



経済性



## 3拍子揃った合ピレ剤

果樹の諸害虫にシャープな効果

経済性に優れる

ボルドー液にも混用可



詳しい製品情報はHPで  
ご確認いただけます。



®アグロ カネショウ(株)の登録商標

# アークリン<sup>®</sup> 水和剤

成分：エトフェンプロックス………20%  
毒性：—（毒劇物に該当しない）

## 適用害虫及び使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数	使用方法
かんきつ	チャノキイロアザミウマ チャノココカクモンハマキ カネタタキ ケシキスイ類 コアオハナムグリ	2000	200~700ℓ /10a	収穫 前日まで	3回以内	3回以内	散布
りんご	モモシクイガ キンモンホソガ	1000~2000					
	ハマキムシ類	2000					
なし	シンクイムシ類 ナシチビガ アブラムシ類	1000~2000					
	ハマキムシ類 ケムシ類	2000					
もも	モモハモグリガ	1000					
くり	シンクイムシ類	2000					
かき	クリシギゾウムシ カキノヘタムシガ チャミノガ	1000~2000	収穫 30日前まで	3回以内	3回以内	散布	
	ハマキムシ類 カメムシ類 チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ	1000					

令和4年11月22日現在

## 試験成績

※薬剤の効果を確かめるため、試験においては本剤の登録上の使用回数を上回る場合があります。使用に際しては本剤の使用回数/総使用回数の範囲でご使用ください。

### ■試験データ(かんきつ チャノキイロアザミウマ)

供試薬剤	希釈 倍数	果実部被害		果頂部前期被害		果頂部後期被害	
		被害率(%)	被害度	被害率(%)	被害度	被害率(%)	被害度
アークリン 水和剤	2,000	3.3	0.6	1.3	0.2	0.0	0.0
A乳剤	2,000	9.3	1.6	3.3	0.6	0.0	0.0
無処理	—	21.3	4.2	11.3	1.9	0.0	0.0

- 年度/H18年
- 試験場/神奈川県農業技術センター
- 品種/青島温州(樹齢22年生)
- 処理方法/7月13日、8月14日、9月15日に1樹当たり10リットルを背負動力噴霧器で立木前面散布。
- 調査方法/10月16日に各処理区内の結果数の多い3樹から1樹50果について、果実部被害、果頂部前期被害、果頂部後期被害を調査。

### ■試験データ(りんご モモシクイガ)

供試薬剤	希釈 倍数	調査 果数	被害 果数	被害 果率
アークリン 水和剤	1,000	880	5	0.6
B水和剤	800	1,059	201	19.0
C水和剤	1,000	1,361	645	47.4

- 年度/S57年
- 試験場/秋田県果樹試験場
- 品種/ふじ(14年生)
- 処理方法/6月25日、7月9日、7月23日、8月10日、8月24日に動力噴霧器を用いて、5回散布。展着剤、殺菌剤を加用。
- 調査方法/8月11日にB剤区の被害果を摘み取った。9月10日に本剤区の被害果を調査。

### ■試験データ(なし シンクイムシ類)

供試薬剤	希釈 倍数	調査 果数	被害 果率
アークリン 水和剤	1,000	200	3.5
D水和剤	1,000	162	14.2
無処理	—	93	58.1

- 年度/S60年
- 試験場/千葉県農業試験場
- 品種/豊水
- 処理方法/7月15日、7月25日、8月5日に動力噴霧器を用いて、3回散布。展着剤を加用。
- 調査方法/8月22日被害果を調査。

## 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ってください。
- 水溶性フィルム包装の場合、内袋はぬれた手で触れないでください。内袋はそのまま所定量の水に投入してください。外袋の開封後は使い切ることが望ましいです。やむを得ず保管する場合でもできるだけ速やかに使い切ってください。
- 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにしてください。
- 散布器具、作業衣などは薬用と必ず区別してください。
- ミツバチ、マメコバチ等に対して影響があるので、以下のことに注意してください。
  - ①ミツバチ、マメコバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないでください。
  - ②関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように

注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

## 安全使用上の注意

- 誤飲、誤食などのないよう注意してください。
- 粉末は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 散布液も眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗してください。
- 散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。
- 作業後は手足、顔を石けんでよく洗い、洗眼・うがいをしてください。

魚毒性…水産動植物(甲殻類、冷水魚)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管…密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。水溶性包装の場合吸湿性があるので、湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を固く閉じて保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。